

上越教育大学附属図書館学習支援セミナー

論文作成のマナーと 文献の利用方法

教育実践研究論文を中心に

上越教育大学附属図書館
(資料作成: 学術情報課 村田 輝)

このセミナーの概要

- 修士論文や卒業論文等で、また学校現場で教育論文を作成するときに必要な、文献利用の方法と論文作成のためのマナーを学ぶことができます。
- 教育実践研究論文を例として取り上げますが、一般的なレポートや論文を作成する場合にも役に立つ内容です。
- 以下のことがわかるようになります。
 - 論文をまとめるのになぜ先行文献を調べる必要があるのか
 - 先行文献をどうやって探したらよいか
 - 先行文献をどのように利用したらよいか
 - **論文作成のマナー(剽窃・コピーを避けるために)**
- 論文のテーマや内容、文章の書き方等については取扱いません。

教育実践研究論文とは？

実践者が行った教育**実践**について、客観的な**記録**や**観察**に基づいて**分析考察**を行い、見出した事柄を**理論**としてまとめた論文

実践

- 再現不可能な一回性という性質を持つ場面で展開される現象
- 同じ実践を行っても、時と場所が異なれば、同じ結果にはならない。

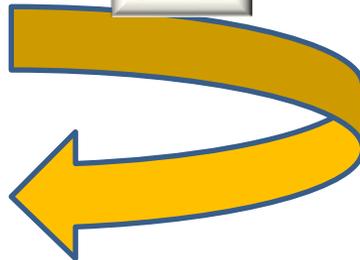
理論

- 実践の場における個々の現象を、筋道立てて意味づけ、説明や共有を可能とする知識の体系
- 実践の結果を理論化することを通して、他者との共有が可能となる。

実践



往還



論文にまとめ、公表



共有・蓄積



理論

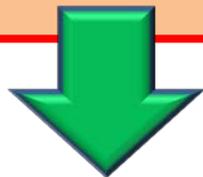


卒業・修了のためには、レポートや論文を書く必要があります。本学の学生の書く論文の多くには、教育実践研究が含まれています。

日々の教育実践を客観的に振り返り、経験を理論として積み上げていくことによって、教員として進歩・成長していくことが可能となります。

全国の教員が共有でき、現場の実践に活用できる知識基盤が形成されることで、教育界全体の発展につながっていきます。

教育実践研究論文は教育実践の単なる報告ではありません。先行研究を押さえ、客観的なデータに基づき、論文のマナーに則って書く必要があります。



図書館を活用して効果的な論文作成

教育実践研究論文の要件

- 先行研究に照らして、実践研究の意義が明確に盛り込まれていること。
- 研究の実証性があること。
- 研究の目的(ねらい)、方法(手続き)、結果、考察が的確に論述されていること。

(上越教育大学学校教育実践研究センター発行『教育実践研究』論文募集案内より)

- 一般論文でも同様です。
- 「こうしました、ああしました」で終わり、普遍性を追求する形にならないものは、「実践報告」であり、「実践研究」とはいえません。

先行研究（文献）を踏まえる

先行研究を引用し、解釈・評価しながら、当該研究の位置づけや独自性・新規性を示す。

- 独自性・新規性がなければ発表の意味がない。
- 先行研究の存在を示さずに同様の内容を発表した場合には、剽窃や盗用として処罰されることがある。
- 共有可能な知識の体系づくり(※)に参画するために、先行研究との関係を明らかにする。

※ 過去の研究と同じことを繰り返す無駄と労力を省き、先行研究を踏まえて、さらに進んだ研究を行えるような環境を整えていく。

先行研究の検討と独自性・新規性の主張の例

全国連合小学校長会(2006)の調査によると...と報告されている⁽¹⁾。

河村(2010)は、それらの問題について一部の教師や学級だけの問題ではなく...ではないかとしている⁽²⁾。

筆者は、これらの状況の背景には、平井(2002)が指摘しているように...ではないかと考えている⁽³⁾。...に注目することが重要であると考えます。

...に対する研究として...浦野(2001)の研究がある⁽⁴⁾。浦野は...実証的に検討を行っている。浦野は...としている。これは...裏付けるものであるといえる。

さらに、加藤・大久保(2009)は...について検討している⁽⁵⁾。また、越(2007)は...について指摘しており⁽⁶⁾、坪田(2011)は、その研究成果を受けて...という提案を行い成果を上げている⁽⁷⁾。つまり...と考えられるのである。

このように先行研究からは...が重要であることが示唆されている。

しかし、浦野の事例は...ではない。坪田の事例も...学級担任交代後の取り組みである。担任してから学級集団が機能しづらくなった学級では、教師はどのように...回復してゆくべきなのだろうか。

本研究においては...学級集団の機能回復をするためには担任に対してどのような支援が有効なのかについて検討することを目的とする。

参考文献リストの記述の例

- (1) 全国連合小学校長会:「学校経営上の諸問題に関する現状と具体的対応策の調査」, 2006
- (2) 河村茂雄:「日本の学級集団と学級経営」, 図書文化, 2010
- (3) 平井秀幸:『「学級崩壊」言説をめぐる一考察一背景・原因及び「三層構造メカニズム」を中心に一, 東京大学大学院研究科紀要第42巻, 2002
- (4) 浦野裕司:「学級の荒れへの支援の在り方に関する事例研究」, 教育心理学研究, pp.113-122, 2001
- (5) 加藤弘通, 大久保智生:「小学校高学年における集団的な問題の行動の規定要因一困難学級と通常学級の比較から」, 日本教育心理学会第51回総会発表論文集, 2009
- (6) 越良子:「中学校の所属感に基づくアイデンティティーに及ぼす影響」, 上越教育大学研究紀要26, pp.357-364, 2007
- (7) 坪田吉巨, 赤木和重, 松浦均:『小学校高学年における学級集団の形成過程一他者受容感を育てる子ども同士の「支え合い」一』, 三重大学教育学部研究紀要, pp.235-256, 2011
- (8) 赤坂真二:「スペシャリスト直伝!学級づくり成功の極意」, 明治図書, 2012
- (9) 北野稔, 岡一恵, 石井麻美, 阿部琢郎:「相手のよさを認め, 自分の思いを伝え合う学級を目指して」『平成23年学校支援プロジェクト報告』, 未公刊, pp9-16, 2012
- (10) 赤坂真二:「気になる子がいる学級がまとまる方法」, 学陽書房, 2011

※ 阿部琢郎, 赤坂真二:「学級集団づくりを志向する担任への効果的な支援の在り方に関する研究」, 上越教育大学教職大学院紀要, Vol. 1, 2014.2 より

参考文献リストの記述の例（別法）

- 連番を振らずに、著者の姓のアルファベット順に並べる
- 著者の姓と出版年により識別

赤坂真二(2011) 気になる子がいる学級がまとまる方法, 学陽書房

赤坂真二(2012) スペシャリスト直伝！学級づくり成功の極意, 明治図書

平井秀幸(2002) 「学級崩壊」言説をめぐる一考察—背景・原因及び「三層構造メカニズム」を中心に—, 東京大学大学院研究科紀要, 42

加藤弘通, 大久保智生(2009) 小学校高学年における集団的な問題の行動の規定要因—困難学級と通常学級の比較から, 日本教育心理学会第51回総会発表論文集

河村茂雄(2010) 日本の学級集団と学級経営, 図書文化

北野稔, 岡一恵, 石井麻美, 阿部琢郎(2012) 相手のよさを認め, 自分の思いを伝え合う学級を目指して, 平成23年学校支援プロジェクト報告, 未公刊, 9-16

越良子(2007) 中学校の所属感に基づくアイデンティティーに及ぼす影響, 上越教育大学研究紀要, 26, 357-364

坪田吉巨, 赤木和重, 松浦均(2011) 小学校高学年における学級集団の形成過程—他者受容感を育てる子ども同士の「支え合い」—, 三重大学教育学部研究紀要, 235-256

浦野裕司(2001) 学級の荒れへの支援の在り方に関する事例研究. 教育心理学研究, 49(1), 113-122

全国連合小学校長会(2006) 学校経営上の諸問題に関する現状と具体的対応策の調査

巨人の肩の上に立つ



ギリシア神話の盲目の巨人オーリーオンとその肩に付き従う奴隷ケーダリオン（プッサン、1658年）

「私がより遠くまで見渡せたとすれば、それは巨人の肩の上に乗ることによってです。」
（アイザック・ニュートン）



論文を書くために取った次の行動は適切でしょうか？

1. ある日、道を歩いていると突然思いついたアイデアを論文に書こうと思ったが、全く独創的なアイデアであったので先行研究は参照しなかった。
2. 「教育委員会」の成立経緯を論文に書こうと思ったが、成立年がわからなかったので、『広辞苑』で調べて確認し、出典を明記した。
3. Googleを検索したら有用な論文を発見したので、必要箇所のコピーを行い、出典を明記した。
4. 「教育行政学」の定義について論文で触れようと思い、『学校教育辞典』を調べたところ、常識的なことしか書かれていなかったので、出典を明記しなかった。

先行研究（文献）をどうやって見つけたらよいのか



研究は多くの場合、「文献」として公表されます。



「文献」には、「図書」や「論文」があります。



「図書」と「論文」は性質が異なります。図書館での探し方も異なります。



「図書」や「論文」を探すためのツールを知る必要があります。

「図書」と「論文」の違い

図書

- 研究の成果などを体系的にまとめた単行本
- 単発で出版され、通常は書店等で市販
- 読者層に応じてさまざまなタイプの図書がある

論文

- 特定の研究の成果を一定の形式に則り記述
- 雑誌(学術雑誌や研究紀要、電子ジャーナル)に掲載
- 専門家が対象
- 最新の研究成果が掲載されている

図書の探し方



図書館をブラブラして探す ⇒ ブラウジング



本学のOPAC(蔵書検索システム)で探す



CiNii BooksやNDL-OPAC(国立国会図書館蔵書検索)で探す



AmazonやGoogle booksで探す



巻末の参考文献リストを見て探す

ブラウジング

原始的な方法だが、予期せぬ発見もあり、実は極めて有効な方法
図書の分類法(日本十進分類法)を知っておくと便利

370 教育

371 教育学. 教育思想

372 教育史・事情

373 教育政策. 教育制度. 教育行財政

374 学級経営・管理. 学校保健

375 教育課程. 学習指導. 教科別教育

375.1 学習指導. 学習指導要領

375.2 生活指導. 生徒指導

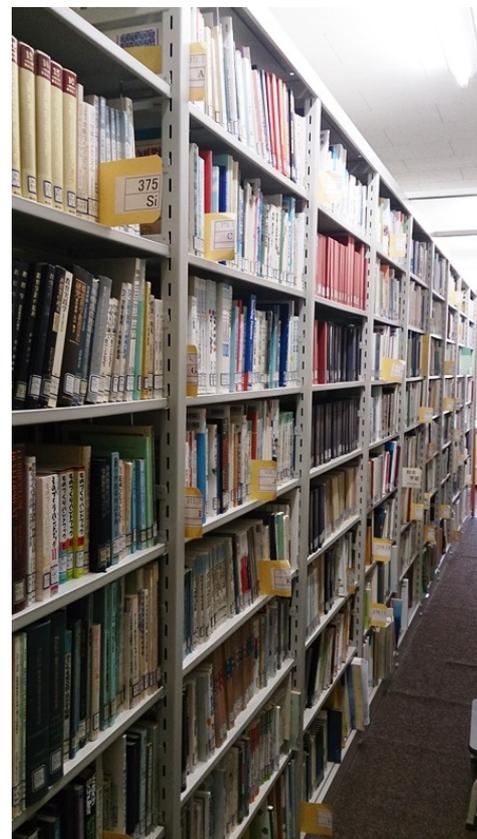
375.3 社会科教育

375.4 科学教育

375.41 数学. 算数. 数学教育

375.42 理科教育

.....



OPAC（蔵書検索システム）で探す



上越教育大学附属図書館 蔵書検索
Joetsu University of Education Library OPAC

「ファシリテーション」で
19件ヒット

適切なキーワードを選ぶこ
とが重要！
⇒ 実はこれが意外と難しい

OPAC

ヘルプ

入力補助

図書館ホーム

検索画面 > 検索結果一覧

上越教育大学 - 該当件数：19件 (ファシリテーション)

再検索

図書(18件)

AV(1件)

選択した資料の詳細表示

メール送信

ファイル出力

- | | | |
|--------------------------|---|--------|
| <input type="checkbox"/> | 1. 図書 学習ファシリテーション論：アクティブラーニングにおけるファシリテーション導入の方策と課題 / 武田正則著
東京：学事出版，2014.3. | 375.1 |
| <input type="checkbox"/> | 2. 図書 実践人間関係づくりファシリテーション = Using the facilitation process for human relationships / 津村俊充, 星野欣生編
東京：金子書房，2013.12. | 361.4 |
| <input type="checkbox"/> | 3. 図書 プロセス・エデュケーション：学びを支援するファシリテーションの理論と実際 / 津村俊充著
東京：金子書房，2012.10. | 361.45 |
| <input type="checkbox"/> | 4. 図書 まなびほぐしのデザイン / 菊宿俊文, 佐伯胖, 高木光太郎編
東京：東京大学出版会，2012.9. - (ワークショップと学び；3). | 379.6 |
| <input type="checkbox"/> | 5. 図書 教室ファシリテーション10のアイテム100のステップ：授業への参加意欲が劇的に高まる110のメソッド / 堀裕嗣著
東京：学事出版，2012.3. | |
| <input type="checkbox"/> | 6. 図書 プロジェクトを変える12の知恵：ケンブリッジ式ファシリテーション / 影山明著
東京：日経BP社. - 東京：日経BPマーケティング(発売)，2011.6. | 336 |
| <input type="checkbox"/> | 7. 図書 “結果”の出ない組織はこう変えろ！：ファシリテーションの応用と実践 / 森時彦著
東京：朝日新聞出版，2011.3. | 336.3 |
| <input type="checkbox"/> | 8. 図書 よくわかる学級ファシリテーション：信頼ベースのクラスをつくる / 岩瀬直樹, ちゃんせいこ著
1, 2. - 大阪：解放出版社，2011.3.- | |
| <input type="checkbox"/> | 9. 図書 教育現場の協働性を高めるファシリテーション実践学 / 武田正則著
東京：学事出版，2011.1. | |
| <input type="checkbox"/> | 10. 図書 保育者養成のための造形ワークショップによる学びに関する研究 [学位論文]：ファシリテーションモデル構築による力量形成の実践的検討 / 渡 | |

CiNii Books, NDL-OPAC

- CiNii Books (<http://ci.nii.ac.jp/books/>)
全国の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌の横断検索
- NDL-OPAC (<https://ndlopac.ndl.go.jp/>)
国立国会図書館の所蔵資料の検索

⇒ これらについては、資料の調達が別途必要。図書館にご相談ください。

□ 国立国会図書館デジタルコレクション (<http://dl.ndl.go.jp/>)

著作権切れの図書等について、Webでデジタル化資料を閲覧可能

- 図書館向けデジタル化資料送信サービス
絶版等で入手できない図書等について、図書館を介してデジタル化資料を閲覧可能
 - 利用できる資料 → http://dl.ndl.go.jp/ja/about_soshin.html

Amazon, Google Books

- Amazon.com
 - 世界最大のオンライン書店
 - カスタマーレビューやレコメーデンション機能があり、本を選ぶ際の参考になる
- Google Books
 - 図書の全文検索サービスであり、検索結果として表示された図書の内容の一部を無料で表示
 - 著作権保護の対象外の著作物については全文を閲覧可能

論文の探し方

- CiNii Articlesで探す
- 機関リポジトリで探す
- 教育分野のデータベースで探す
- 海外の文献データベースや電子ジャーナルで探す
- Google Scholarで探す
- 引用・参考文献リストを見て探す

CiNii Articlesで探す

- まず最初はこれ！
- 日本で発表された論文を探ることができるデータベース
- 日本国内で発行された学術雑誌や研究紀要に掲載された論文はだいたい収録している
⇒ ただし、現場の教員が執筆した教育実践研究等は十分にカバーできていないようである
- リンクをたどって全文テキストを見ることが出来るものもある

CiNii Articles (<http://ci.nii.ac.jp/>)



This is the full article page on CiNii. The article title is "小学校国語科の引用指導のための学習指導の提案" (Suggestion of Teaching Methods for Quotation Instruction of Elementary School Language Arts). The authors are 長島 光晴 (NAGASHIMA Mitsuharu) and 川島 芳昭 (KAWASHIMA Yoshiaki). The article is from the journal "鹿沼市立栗野第一小学校" (Rikuzo City Rikuno No. 1 Elementary School). The page includes a "この論文にアクセスする" (Access this article) section with buttons for "外部サイト" (External site) and "機関リポジトリ" (Institutional repository). It also features a "この論文をさがす" (Search for this article) section with buttons for "NDL-OPAC" and "CiNii Books". The article is part of the "宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要" (Journal of the Center for Educational Practice, Faculty of Education, University of Utsunomiya). The page includes various metadata such as ISSN (13452495), NDL registration ID (025747897), and a list of keywords: "小学校国語科引用 著作権教育 情報モラル教育 内発的動機づけ 教育工学".

機関リポジトリで探す

- 機関リポジトリは、各大学等がその機関の構成員による教育研究成果物(学術雑誌論文、紀要論文、プレゼン資料、教材など)を発信するために構築しているデータベースです。
- 教育研究成果物の全文データが登録されています。
- CiNii Articlesがカバーしていない論文以外の資料も収録しています。
- 日本では現在、400に近い機関リポジトリが公開されています。
- 日本国内の機関リポジトリを横断的に検索するために、JAIRO(<http://ju.nii.ac.jp/>)を利用します。

JAIRO (<http://ju.nii.ac.jp/>)



- お知らせ
- JAIROについて
- 利用方法
- お問い合わせ

- 良く利用されるコンテンツ
- IRDBコンテンツ分析
- JAIRO利用統計

English

簡易検索

詳細検索

2014/10/26現在 398機関 1,890,558件

検索

すべて 本文あり

お知らせ

- ユーザインターフェイスの見直しについて (2013/3/22)
- 本文ありコンテンツ数が100万件を突破しました。100万件目は鹿児島大学リポ

(NII) 学術機関リポジトリ構築連携支援事業 日本の機関リポジトリ一覧

The screenshot shows a web browser window displaying search results for '算数 学び合い' (Mathematics Learning Together). The search bar at the top shows the query and the number of results (8 items). Below the search bar, there are several search results listed, each with a checkbox, a small icon, and a title. The first result is '算数科授業における学び合いについての一考察—協同と協働の意味を視点として— / 太嶋 靖久, 牧野 智彦' from the University of Tsukuba. The second result is '学び合いを生かす授業方法に関する研究—算数科における道具とルールに着目した支援— / ヨネザワ, ナホコ, 米澤, 奈津子, Yonezawa, Nahoko' from the University of Tsukuba. The third result is '数学的な思考力・表現力を育てるための学習指導の研究:「数量関係」において算数的活動を取り入れた学び合いの学習を通して / 鎌田 頼彦, 添田 佳伸, Kamada Tomohiko, Soeda Yoshinobu, カマダ 上 王 臣 浩, ソエダ ヨシノブ' from Miyazaki University. The fourth result is '算数: 数学の授業における学力及び学習観に影響を及ぼす要因 / 中村 恵子, Nakamura Keiko' from the Niigata University of Education. Each result includes a 'No Image' placeholder and a link to the full document.

教育関係のデータベースで探す

- 教育研究情報データベース（国立教育政策研究所） <https://www.nier.go.jp/database/>
- 教育研究論文索引検索（国立教育政策研究所教育研究情報センター）
<http://dl.nier.go.jp/epi-search/sru-gw.rb>

- ・教育関係の文献に特化
- ・CiNiiがカバーしていない教育関係文献も収録
- ・収録範囲や収録期間に注意して利用

教育研究情報データベース (<https://www.nier.go.jp/database/>)

国立教育政策研究所 教育研究情報データベースのページ

国立教育政策研究所ホームページ | 教育研究情報センターのページ

HOME / お問い合わせ / サイトマップ /

教育研究情報データベース HOME

国立教育政策研究所
National Institute for Educational Policy Research

はじめにお読みください

利用規程

サイトポリシー

プライバシーポリシー

システム説明

- システム概説
- 利用環境
- 利用方法
- Q & A

データベース解説

- 教育研究所・教育センター刊行論文
- 教育研究所・教育センター刊行論文(本文付)
- 初等中等教育諸学校における実践的教育研究主題
- 地方教育センター等における教職員研修講座
- 高校入試問題
- 教育学関係博士・修士学位論文題目
- 全国小中学校研究紀要(学習指導案)



教育研究情報データベースを利用するためには、下の「検索画面へ」をクリックして教育研究情報データベースの「データベース検索」画面へ進んでください。
2012年1月20日からユーザ登録無しで直ちに「検索画面へ」

お知らせ

- 2014/07/10 教育研究所・教育センター刊行論文(本文付)を追加しました。詳細はデータベース検索画面へ
- 2014/04/01 全国小中学校研究紀要(学習指導案)をご一読ください。
- 2013/04/24 全国小中学校研究紀要(学習指導案)をご一読ください。
- 2012/08/17 全国小中学校研究紀要(学習指導案)解説をご一読ください。
- 2012/08/02 教育研究所・教育センター刊行論文(本文付)を追加しました。詳細はデータベース検索画面へ
- 2012/01/20 利用者登録の手続きとログイン指変更を行いました。
- 2007/08/06 「教育学関係博士・修士学位論文」関係のデータを追加しました。
- 2007/06/11 「初等中等教育諸学校における実践的教育研究」関係のデータを追加しました。
- 2007/02/22 国立教育政策研究所 教育研究情報データベースの著作権は、国立教育政策研究所に帰属します。教育研究情報データベースに含まれる個々のコンテンツの著作権は、各コンテンツの提供者等の著作権者に帰属します。

検索

国立教育政策研究所 教育研究情報検索システム

データベース検索結果一覧

ヘルプ

キーワード

辞書

検索

オプション検索 新規検索

表示データベース 全て

表示件数 5

一覧ダウンロード

しり込み検索

データベース検索 結果一覧

1431件中 1 - 5件

[表現力を育てる社会科学習指導の工夫～学び合いを深める評価を取り入れたプレゼンテーション活動を通して～ Y](#)

[掲載誌名] 第36・37集研究概要 [発表年月] 200508
[索引語] [研究対象] 中学校 [研究方法] [文献の種類]

[広い視野をもって考え、学び合い、心豊かに生きる児童の育成～ Y](#)

[掲載誌名] 研究紀要『情報教育に関する研究』 [発表年月] 200508
[索引語] [研究対象] 小学校 [研究方法] 実践研究 [文献の種類]

[自分の思いや考えを伝え合うことにより、学び合い、深く合う国語科の授業～読み取ったことを伝え合う感想交流を通して～](#)

[掲載誌名] 研究報告書第21号 [発表年月] 200508
[索引語] 国語 / 感想交流 / 読解指導 / ペアワーク / 対話活動
[研究対象] 小学校 [研究方法] 実践研究 [文献の種類] 研究論文

[ホームページ実現に向けた交流教育の実践～ Y](#)

[掲載誌名] 研究紀要5.1 [発表年月] 200508
[索引語] 交流教育 / 自己認識 / 学級経営 / 学校生活 / 学級担任
[研究対象] 小学校 [研究方法] 実践研究 [文献の種類] 研究論文

[一人一人が楽しく、分かる授業の創造～基礎・基本の確実な習得をめざす学習指導の工夫～](#)

[掲載誌名] 平成16年度研究紀要第62号 [発表年月] 200508
[索引語] 学び合い / 算数的活動 / 自己の高まり / ものづくり / 数学的見方・考え方 / 科学的思考力
[研究対象] 小学校 / 中学校 [研究方法] 実践研究 [文献の種類] 調査報告

次

海外の文献データベースや 電子ジャーナルで探す

- ERIC / [EBSCOhost](#)
教育学文献データベース。論文、報告書、会議資料、行政文書などをカバー
- Teacher Reference Center / [EBSCOhost](#)
米国の学校教員向けに作成された教育関連雑誌等の記事データベース
- PsycINFO / [EBSCOhost](#)
1800年代から現在までの国際的な心理学文献のデータベース
- [ScienceDirect](#)
エルゼビア社が発行する2,500誌以上の科学・技術・医学・社会科学分野の電子ジャーナル等

Google Scholarで探す



- ・学術専門誌、論文、書籍、要約など、学術資料を検索対象としたGoogle
- ・内外の膨大な文献がヒットするが、収録範囲や評価基準は不明確。

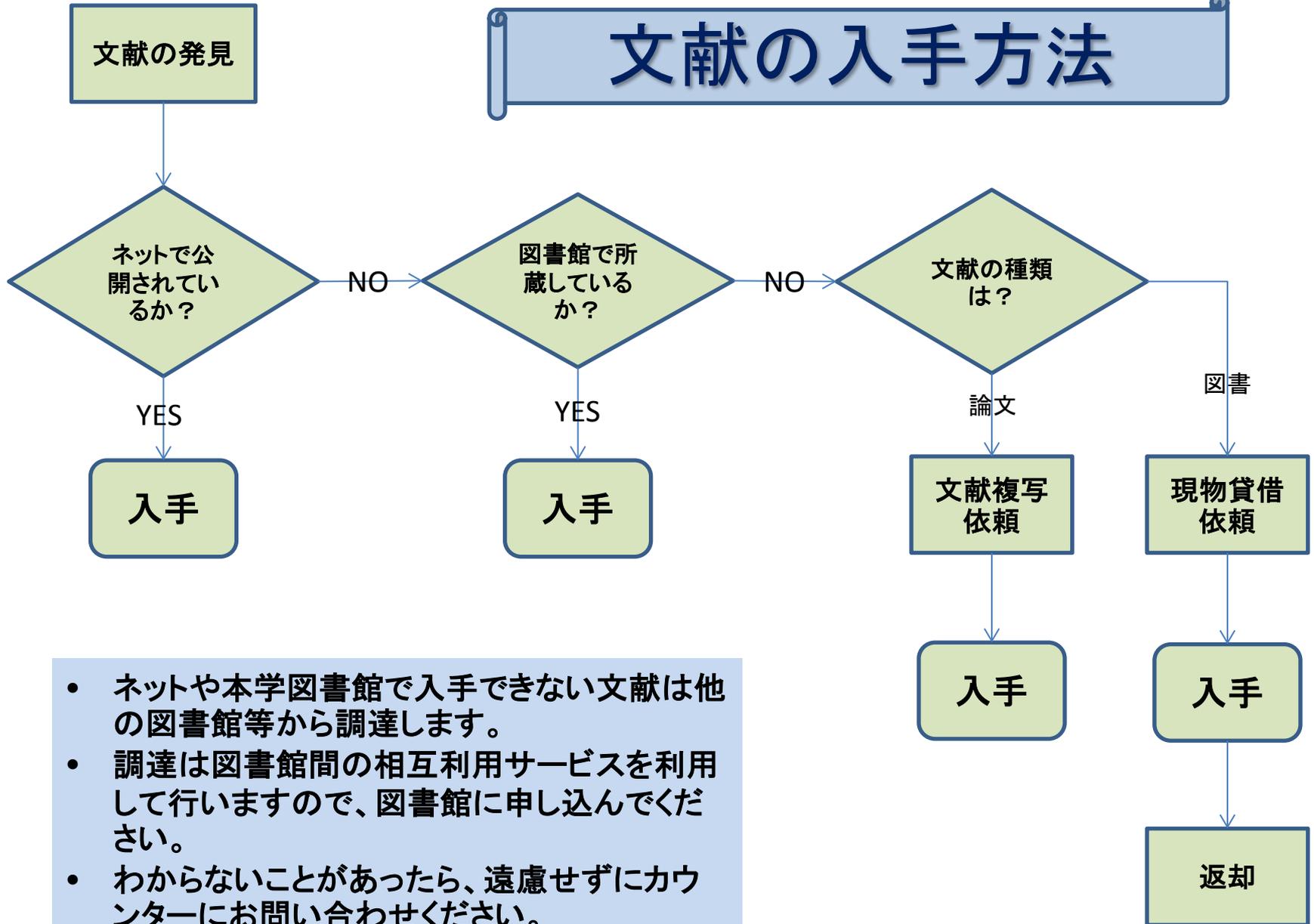
文献リストを見て探す

引用及び参考文献

- (1) 中央教育審議会：「今後の教員養成・免許制度の在り方について(答申) (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/06071910/003.htm)」(2013.2.13閲覧), 2006.
- (2) 中央教育審議会：「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(答申) (http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/08/30/1325094_1.pdf)」(2013.2.13閲覧), p.2, 2012.
- (3) 坂野智之・西川純：「教員同士の『学び合い』に関する研究」, pp.28-29, 臨床教科教育学会誌 8(1), 2008.
- (4) 西川純：「『学び合い』の手引書 (<http://dl.dropbox.com/u/352241/manabiai-data/net-book/tebiki.pdf>)」(2012.11.4閲覧), p.11, 2011.
- (5) 小野村リサ・西川純：「中学校理科学習における生徒間の『教え手・学び手』関係と成績の関連」, pp.75-82, 日本理科教育学会誌 47(1), 2006.
- (6) 小林千鶴・西川純：「子ども同士の学び合いを促す教師に関する研究」, pp.52-53, 臨床教科教育学会誌 7(1), 2007.
- (7) 山田純一・西川純：「子ども有能性を実感した教師の変容」, pp103-126, 臨床教科教育学会誌 7(1), 2007.
- (8) 同上書(7)
- (9) 岩崎太樹・水落芳明・西川純：「『学び合い』授業における学習者の意識と行動—教師の『学び合い』への不安をもとに—」, pp.41-56, 臨床教科教育学会誌 8(1), 2008.

- テーマに関する主要な文献を見つけ、巻末に掲載された引用文献や参考文献をたどっていく方法です。
- 有効で効率的な方法ですが、その文献の執筆後に出た文献を探すことはできません。
- 実践研究論文に掲載された文献リストはあまり十分でない場合が多いようです。
- **その引用・参考文献リストに掲載している文献(論文等)の内容を超えるためには、独自に新しい文献を見つけることも必要です。**

文献の入手方法



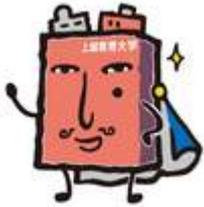
- ネットや本学図書館で入手できない文献は他の図書館等から調達します。
- 調達は図書館間の相互利用サービスを利用して行いますので、図書館に申し込んでください。
- わからないことがあったら、遠慮せずにカウンターにお問い合わせください。

巨人の肩の上に立つ



ギリシア神話の盲目の巨人オーリーオンとその肩に付き従う奴隷ケーダリオン（プッサン、1658年）

巨人（先行研究）の肩の上に立ち、巨人への敬意を払いつつ、自らの新しい研究を生み出し、社会へ向けて公表する。



文献入手のために取った次の行動は適切でしょうか？

1. 北大路書房から2009年に出版された『自己調整学習と動機づけ』という図書を利用しようと思ったが、本学で所蔵していないことがわかったので、他大学の図書館に複写を依頼した。
2. 学術文献データベース“Web of Science”を検索したいと思ったが、本学では利用できなかったため、長岡技術科学大学の図書館へ行って利用させてもらった。
3. 『上越教育大学研究紀要』に「コミュニケーションカードを用いた授業改善の試み」という論文が掲載されていると聞いたが、何号に掲載されているのかがわからなかったため、OPAC(蔵書検索システム)を使って調べた。
4. 大阪教育大学のN教授が学会発表で用いたプレゼン資料をデータベースで検索できると聞いたため、CiNii Articlesで検索した。
5. 『富山大学人文学部紀要』の61号に掲載されているある論文を見たいと思ったが、本学で所蔵していないことがわかったので、他の図書館に複写を依頼した。

先行研究（文献）の利用

- 当該論文の独自性を示すために引用する。
- 先行研究の情報を利用するために引用する。
- 知識の体系の中に位置づけ、共有可能な知識とするために引用する。

- 先行研究（文献）が示されていない論文は、学術研究に資する論文として評価されない。
- 先行研究（文献）を利用しているにも関わらず、利用したことを明示していない場合には、剽窃・盗用とみなされる。



先行研究（文献）を利用するために、一定の手続きを踏まえて、先行文献を「引用」する。

「引用」とは？

著作権法 第三十二条

公表された著作物は、引用して利用することができる。この場合において、その引用は、公正な慣行に合致するものであり、かつ、報道、批評、研究その他の引用の目的上正当な範囲内で行なわれるものでなければならない。

- 論文執筆等の際、自説を補強するため、他人の論文の一部をひいてきたりするなどして、自分の著作物の中に他人の著作物を利用することを「引用」という。
- この場合、著作権者の許諾なしにその著作物を利用することができるが、「引用」といえるためには、「引用の目的上正当な範囲内」で行われるものであり、また、引用される部分が「従」で自ら作成する著作物が「主」であるように内容的な主従関係がなければならない。さらに、かぎ括弧を付けるなどして引用文であることが明確に区分される必要がある。
- 引用の際の出所の明示の仕方は、引用部分を明確にした上で、その後に誰のどの著作物であるかを表示するなど、少なくとも引用された著作物の題号や著作者名が明らかにわかるような表示が必要。

引用の方法

- 元の文章をそのまま引用する。
...このことに関連し佐藤(2005)は、「学校において“学ぶ”ためには、“教師や仲間との対話の実践”が存在し、対話的コミュニケーションが成立していることが必要である。また、“対話的コミュニケーションが成立している教室では、その基盤に聴き合うかわり”が成立している」(No.)との見解を示し、...
- 自分のことばに変更したり要約して引用する。
...石川(2013)は他者との円滑な相互作用に求められる社会的スキルに着目し、メール利用時の振る舞いの傾向を探っている。その結果、社会的スキルの違いによって、メール利用時の振る舞いに異なる傾向があることを明らかとした(No.)。...

- 他人の意見(文章)を自分の意見(文章)であるかのように書かない！
- 他人の意見(文章)を参考にした場合には、出所を明らかにする。
- 自分の意見(文章)と他人の意見(文章)は明確に区別する。
- 引用元の文章の意図と異なる(無視した)引用を行わない。
- 自分の意見(文章)を補強するための必要最小限の引用であること。

参考文献リストの書き方(例)

- (1) Gordon, R. H. and B. G. Malkiel (1981), "Co-operation Finance," in H. J. Aaron and J. A. Peckman, eds., *How Taxes Affect Economic Behavior*, The Brookings Institution, pp.131–192.
- (2) Hicks, J. R. (1946), *Value and Capital*, 2nd ed., Oxford University Press.
- (3) 酒井英樹(2014)『小学校の外国語活動基本の「き」』大修館書店。
- (4) 稲垣応顕(2013)「学校教育相談(教育カウンセリング)における理論背景とビリーフ」『上越教育大学研究紀要』第32巻、35～43ページ。
- (5) 黒羽正見(2011)「学校組織論の視点からの学校づくり」稲垣応顕ほか『学際型現代学校教育概論:子どもと教師が共鳴する学校づくり』金子書房、84～112ページ。

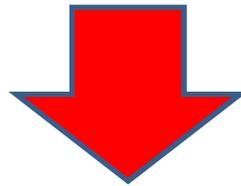
- 第三者が、その記述で確実に該当文献を探すことができること
- リストの中での記述方法は統一すること
- 注番号等で、本文中の記述と対応させること

参考文献リストに含むべき情報

図書 (単行本)	①著者名あるいは編著者名、②出版年、③『書名』、④出版社、(⑤参照ページ)
雑誌や論文集に掲載された論文・記事	①著者名、②出版年、③「論文のタイトル」、④『論文の掲載された図書・雑誌名』、⑤掲載雑誌の巻数・号数、掲載ページ、⑥論文集等の編者名と出版社、(⑦(アドレス(URL)、(参照日付))
新聞記事	①新聞名、②記事が掲載された日付、朝夕刊の別、③記事のタイトル
Webページ(インターネットのページ)	①作成者(分かれば)、②Webページのタイトル、③アドレス(URL)、④アクセスした日

注意！

参考文献の記載の仕方はさまざまです！
学問分野や発表するメディアによって、異なる慣習があります。
たとえば、学術雑誌に論文を投稿する場合などには、必ず、
その雑誌で採用されているルールを確認しましょう。



- 指導教員に聞く！
- 「投稿規定」を確認する！ 他の論文の真似をする。
- 記述方法は統一する。
- その記述で確実に該当文献を探することができる。

研究活動における不正行為

①捏造	存在しないデータ、研究結果等を作成すること。
②改ざん	研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること。
③盗用	他の研究者のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を当該研究者の了解又は <u>適切な表示</u> なく流用すること。



論文執筆をめぐって取った次の行動は適切でしょうか？

1. 友人が授業の課題で教員に提出したレポートを見させてもらったところ、非常に有意義な内容が書かれていたので、論文中に一部を引用し、出典を明記した。
2. ある本に自分の研究テーマと関係のある有名な現代画家の絵が掲載されていたので、コピーしたものを自分の論文に転載したうえで、出典を明記した。
3. ある短歌を論文に引用しようと思ったが、作品をまるごと引用するのはよくないと考え、上五句だけを引用したうえで、出典を明記した。
4. Aという学会誌に論文を発表したが、自分の書いた論文を多くの人に読んでもらいたいと思い、自分のホームページに論文のデジタルデータを公開した。
5. 論文に経済産業省が発表したデータを利用したいと思ったが、経済産業省のホームページに載っていた表が見にくかったので、見やすく表を加工したうえで、論文に掲載した。

おすすめの文献

- 西川純.『実証的教育研究の技法:これのできる教育研究』. 新版. 岡山, 大学教育出版, 2000
- 戸田山和久.『論文の教室:レポートから卒論まで』. 新版. 東京, NHK出版, 2012
- 藤田節子.『レポート・論文作成のための引用・参考文献の書き方』. 東京, 日外アソシエーツ, 2009
- 井下千以子.『思考を鍛えるレポート・論文作成法』. 第2版. 東京, 慶應義塾大学出版会, 2014
- 東北大学附属図書館. 東北大学生のための情報探索の基礎知識シリーズ
<http://tul.library.tohoku.ac.jp/modules/supp/index.php?cat_id=3>, (参照 2014-7-30)
- 科学技術振興機構. 参考文献の役割と書き方:科学技術情報流通基準(SIST)の活用
<http://sti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST_booklet2011.pdf>, (参照 2014-8-6)

※ 他にも参考になる文献が多数存在します。